

古道を訪ねて ②②

巡礼道 (勝尾寺・中山寺) ④

「白姫神社」から南へくだり、「白島石丸共同墓地」の東を通り越すと、右側に、特別養護老人ホーム「白島荘」があります。

巡礼道は、白島荘とその西隣の養護老人ホーム「永寿園」の北側(裏)を通り、「府道箕面池田線(通称山麓線)」と合流し消滅します。山麓線を西に進み、新御堂筋を越えて約50m進むと、右手の集落の中に入っていく細い道があります。これが巡礼道です。

集落の中を300mほど進むと、再び山麓線と合流しますが、西へ30mほど進んだ信号機のある十字路の所で復活します。十字路を左(南)に曲がる道が巡礼道です。曲がつてすぐの三差路の角に道標(写真①)があります。正面(北面)に観音像を浮き彫りにし、その下に「右中山寺 三

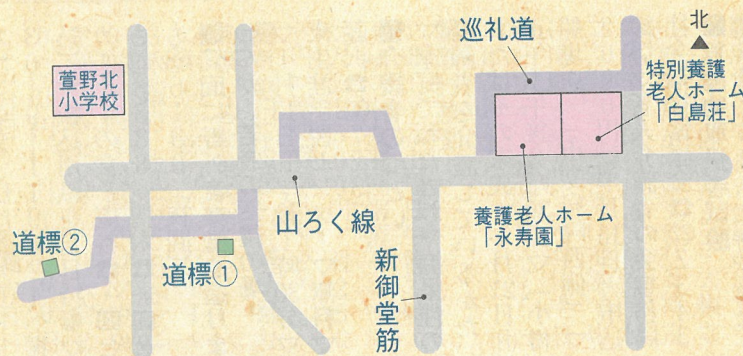


道標①



り、右面(西面)に「左勝尾寺」の文字を刻み、中山寺・勝尾寺への方向や距離(約12km)を教えてくれています。また、裏面には「文化三年寅五月建立 丹後國兵助」とあり、道標の建立年(1862年)と寄進者が丹後(現京都府北部)の人であることがうかがい知れます。勝尾寺を出発して山中の険しい道をたどってきた巡礼は「中山寺三り」の文字を見て、勇気付けられたことでしょう。

「右中山寺」と道標が示すとおり、右(西)に曲がり、如意谷に向かって進んでいくと、道の右側の田の土手に、見落としてしまいうような小さな道標(写真②)があります。正面(南面)に「左ハ中山」左面(西面)に「奉納百十八番」の文字が刻まれています。本来はこの場所にあったものではなく、村の中を南北に横切る道と、東西方向に通る巡礼道の交差点にあったと考えられます。「奉納百十



道標②

八番」の意味は定かではありませんが、この道標を寄進する前に、117本の道標を建てていると考えると、大変興味あることです。